

いっただいあつまりて大海とな
る。微塵つもりて須弥山とな
れり。日蓮が法華經を信じ始
めしは、日本国には一帝一微
塵の如し。法華經を二人三人
千人、百千萬億人唱へ伝ふる
ほどならば、妙覺の須弥山と
もなり、大涅槃の大海上ともな
るべし

何事でも、時と所がよく考慮されねばなりません。其の時を得ず、其所に叶わぬ事は決して永く行われませんが、若し時を得、所に叶つた事は、其始めに於いて唯だ微ひよ小な勢力しか持たないものでも、あとになれば必ず大をなすに至るもので。それは、あたかも一滴の水が集まつて大海

はじまつたお題目の口唱は、一粒の粟の如きものではあるけれど、その一粒一粒があつまれば、遂には大海の如くになる筈であるというのであります。

薩道」と説かれています。お経文には「積功累徳求菩薩」これは「功ヲツミ、徳ヲ累ネ

うべき基本的な教えといふことが云えるのであります。
「信心ハツシクコト肝心ナリ」と御指南下されてあり、更に「つとめよやいかなる」とともかなふべし
あめのしたゝりいしをうがてば」と御教歌下されてあり、はじめはたとへ、わずかでも、そのわざかな力でも、つゞけ

せんがずつとつづけ重ねれば
「だいもくは千遍よりは万遍と
唱へ重ねて妙をしるなり」
とお示しのよう、「妙ヲ
知ル」という事、即ち、必ず
御利益が顯われると仰せられ
ているのであります。
佛立信心の基本である日々
の御看経を懈怠してはなりま
せん。

寺院にまで発展させられ、時
のご講有、日随上人に、「日
本第一の弘通家」と称讃され
る程のご弘通にご尽力された
御導師です。

当山は、この日歎上人を、
「当山草創」とお敬い申し上
げ、報恩の志をもつて御会式
を奉修させていたゞくのです。

同歸亭要語錄

となり、チリかつて大き
な山が出来るようなもので
す。法華經は末法の世に必ず
弘まるべきものであり、日本
国は特に法華經有縁の国であ

ル」ということですか? どんな
さゝやかなものでも、ひき
つゞき同じようにつづけて
行つてゆくと、いつの間にか、
大きなものが出来上がつてゆ

ているといつ間にか考
えられないほどの力が生まれ
てくる事を示されます。お互
い御同前の平日の信行である
ところの朝夕のお看経が一

羽村別院にて奉修されます。

佛立開導日扇聖人はご教歌
吾祖師の宗旨びらきの
はじめには
旭のそらに鶴の舞ひしと
私共佛立信者は、お祖師様
のおかげで、この尊い御法様
にお出下さいすることができた
のであります。又ご教歌に
思へ人 祖師御出世の
なかりせば
御題目は誰が手よりきく

本寺 乗泉寺へ当番参詣
当山住職第二座」ご奉修

来る七日(土)乗泉寺の当番参詣があります。

このたびは、第一座を当山住職が奉修導師を、お勤めになり、教務部とご信者は、第三座に参詣させていたゞくことになります。

年に一度の本寺への当番参詣ですので、各ブロック等は将引を徹底して一人でも多く

四月は、功徳会会費申し込みの月であります。

この「功徳会」は、当山の第二義納金とも申すことがで
き、その使途は多岐に亘つてあります。

因にその使途を次に挙げますと、

一、宗門三大奉納金への協力
イ 本山御初灯明料
ロ 宗門縦回向料

日十円（ひと月三〇〇円）を
一口として、毎日お看経毎に
「功德箱」に入れ、お寺に奉
納しておりましたが、現在の
貨幣価値から考えてみると、
一日十円という観念はい
かがなものでしようか！

四月の御總講日
一日十時　御修行日
六日十時　バースデー總講

高祖曰蓮大士立教開宗記念
教化必成祈願一萬遍口唱

清流ニユーズ

発行所
八王子市子安町1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
<http://www.yasumi-inoue.org/>

平成三十年度総祈願

参詣させていたゞきましょう。

ハ 高祖会全国奉納金
二、本山や、本寺（信廣会）
への協力
三、海外弘通応援
四、年間予算計上外の出費